

アクアバイオ学特別総合実験 (10単位)

担当者氏名 渡邊 研一、白井 滋、塩本 明弘、小林 万里、千葉 晋、瀬川 進、松原 創

◆学習・教育目標 (到達目標を記載)

修士論文作成のプロセスを通して、論理的思考能力、分析能力、コミュニケーション能力などを身につけることを目標とする。具体的には、研究テーマを選択するに至った背景と研究目的の設定、実験計画、研究目的を達成するための実験および調査手法の習得、データの集積と統計解析、結果から得られる結論および考察などについて段階を踏んで指導する。研究成果は、学会等で発表させ、学術論文の書き方に則って修士論文を作成させる。

◆取り扱う領域 (キーワードで記載) ご自身のキーワードを記入してください

魚介類防疫技術	集団解析	環境モニタリング	個体群動態
食物網	生活史	水圏生物の生殖	

◆授業の進行等について

テ ー マ	内 容	準備学習(予習復習)等の内容と分量
<ul style="list-style-type: none"> • 魚介類の疾病防除対策 • 水産動物の集団構造解析 • 環境モニタリングと解析 • 海生哺乳類の個体群動態 • 食物網 (栄養段階) 推定 • 水圏動物の生活史 • 水圏生物の生殖生物学 	<p>魚病に関するリスク評価とそのマネジメントについての研究指導を行う。(渡邊 研一)</p> <p>実際のデータを用いての集団解析に関する研究指導を行う。(白井 滋)</p> <p>海洋環境のモニタリングと得られたデータの解析についての研究指導を行う。(塩本 明弘)</p> <p>海生哺乳類の個体群動態的な解析とその評価および管理について研究指導を行う (小林 万里)</p> <p>生態系内における捕食-被食関係の定量技術および栄養段階計算について指導を行う。(千葉 晋)</p> <p>水圏生態系における動物プランクトンと頭足類の生活史について研究指導を行う (瀬川 進)</p> <p>水圏生物の配偶子形成、受精、発生に関する研究指導を行う。(松原 創)</p>	<p>◎修士とは一人前の研究者となる第一歩である。したがって、自ら問題を把握して、その解決を目指して行動し、結論を導くことができるようになる必要がある。教員から指示されるテーマに関する予習および復習を十分行うこと。</p>

◆教科書及び資料 (授業前に読んでおくべき本・資料)

書名/著者/発行所 (発行年)
担当教員から別途指示する。

◆授業をより良く理解するのに便利な参考書・資料等

書名/著者/発行所 (発行年)
担当教員から別途指示する。

◆評価の方法 (レポート・小テスト・試験・課題等のウエイト)

授業における計画・相談・行動結果を100%として評価する。

◆オフィスアワー

いつでも良いが、事前に相談すること。

◆その他受講上の注意事項

自ら計画し、教員に相談して指導を受け、自ら行動する必要がある。